

神戸市 東遊園地

芝生化&にぎわい創出について

神戸市



東遊園地への期待

東遊園地は都心の貴重なオープンスペースとして親しまれているが、平成27年度に策定された「神戸2020ビジョン」や「神戸の都心の未来の姿」などにおいて、さらなるにぎわいや利活用の創出の場として位置づけられるなど、都心活性化や回遊性向上の拠点としての役割が期待されている。また、公園周辺に高層マンションが増えるなど、周辺環境の変化によって公園利用者のニーズも多様化しており、公園のさらなる魅力づくりが求められている。一方で、東遊園地には明治開港期からの歴史遺産や多数の彫刻が多く存在するほか、震災の記憶を残す慰霊と復興のモニュメントがあり、1.17のつどいやルミネリエなど、全市的な大規模イベントの会場ともなっており、既存の利用と新たなニーズとの調整が必要である。

芝生化実験

平成28年度に広場を芝生化し、芝生の種類と施工方法、芝生保護材、土壌改良材数種の組み合わせで10パターン以上の実験区を設け、生育状況の優劣を評価検証した。芝生はルミネリエ開始までは概ね良好に生育したが、大規模イベントでの群集の踏圧等により大部分の芝生が擦り切れ、消失した。しかし、生育調査によると根は生きており、養生シートの敷設やエアレーション、播種・挿し芝・ポット苗による補植等を実施し、回復を促した。現在も芝生の生育状況を見極めながら必要な作業を適宜実施しており、芝生広場には平日の日中にも関わらず親子連れや学生グループなど多くの方々がくつろいでいる。



にぎわい創出

広場の芝生化とあわせて東遊園地に更なるにぎわいを創出するため、社会実験アーバンピクニックを平成28年度から実施している。以前は神戸まつりやルミネリエ、1.17のつどいといった大規模イベントが行われるとき以外は閑散とした空間であったが、期間中は様々なプログラムが開催されたほか、拠店施設で運営したカフェには多くの人々が訪れた。また、土曜日の午前中には地産の農産物を扱うファーマーズマーケットが開催され、アーバンピクニックとの相乗効果もみられ大きなにぎわいを見せた。

今後の展望

平成28年度に開催された東遊園地再整備検討委員会においては、にぎわいを創出する使い方やマネジメントの方向性を明らかにするとともに、それを実現させるための再整備プランの検討を行い、東遊園地の再整備基本構想が策定されている。数年後には再整備が予定されているが、今回の実験で得られた知見を活かし、芝生広場が東遊園地のにぎわい創出に重要な役割を担っているということを改めて位置付け、大規模イベントや一般利用とのバランスを考えながら、新たなにぎわいを生み出しながらも良好な芝生広場を維持管理できるような仕組みを構築していきたい。